



ゆうメール

MAC NEWS

2026年 2月号



本当の「むっちゃいい先生」とは・・?

～「生徒に評判の良い先生」は本当に良い先生なのか～

他塾のチラシを見ると「親切、丁寧、分かるまで指導します」という文言をよく目にします。

確かに、親切・丁寧・分かるまで指導することはとても大切なですが、塾の言う親切って、本当に生徒にとっての親切な指導なのでしょうか・・。

今から20年前、少し考えさせられる出来事がありました。

当時MACには多くの大学生のアルバイトが授業に入っていました。その中のA君は有名大学に通う大学生。非常に教育熱心で、生徒達のことが大好きで、そんな生徒たちのために常に一生懸命。若くて、イケメンで、熱心に指導してくれるので、当然生徒達にも人気の先生でした。

ある日の小学生の授業で、A先生は算数の「分数」の授業をしていました。

その日も大人気の先生は子どもたちの為にいつも通り一生懸命！

親切、丁寧に分かるまで一から十まで解説しながら授業を進めます。

慕われている先生なので子どもたちもしっかり先生の授業を聞いています。授業終了後は、

「やっぱり先生の授業はよく分かるわ～！教えるの上手いし、しゃべって楽しいし、A先生ってほんまにいい先生やな～！(^^)！」

と子どもたちは口々に話していました。A先生も手ごたえ十分だったようだ、

「今日も子どもたちはよく授業を聞いてくれました。みんな良く分かったと言っていたので、次のテストはバツチリ結果を出してくれますよ！」

と笑顔でした。そして楽しみにしていたテストの結果は・・・。

なんと散々なものだったので、A先生はショックを隠しきれません。

「あれだけ長い時間教えて、あれ

だけ頷（うなづ）きながら『分かった、分かった』と言ってくれていたのに、なぜなんですか！？』

それを聞いた当時の塾長は、

「ちょっと教えすぎじゃないかな？あれだけ一から十までこっちが一方的にしゃべったら、生徒達はその時は分かった気になるけど、自分で苦労して答えにたどり着いていないから、解き方・考え方なんてすぐ忘れるよ。次は僕が指導してみるね」

ということで、塾長が「教えない（考えさせる）指導」で授業したところ、次回のテストでは生徒達みんながきっちり結果を残してくれたのです。

生徒たちにとっての 「本当にいい先生」とは？

先述のA先生は生徒達の評判はピカ一の「いい先生」です。当然、生徒達の為に一生懸命で教育熱心なので塾にとってもいい先生であることに変わりは無いのですが、「指導方法」の面では、考え方直してもらわな

ければいけない部分がありました。

MACも基本的には「親切、丁寧、分かるまで」は大切だと思っていますし、そのつもりで指導しています。しかし、MACの考える「親切・丁寧・分かるまで」は、他塾や一般的な感覚とは少し違うように感じます。

MACは先述のように「考えさせる指導」を理念としています。あくまで考え方、解き方は教えるけど、それを使って答えにたどり着くのは生徒本人の仕事です。そのくり返しが、今学んでいる事を定着させ、学んだことが蓄積され、実力になり、後に結果へと結び付くのです。

しかし「考えさせる指導」は先生のペースで一方的に進む授業とは違い、生徒自身が自分で頭をひねり、あれこれ工夫しながら自ら答えにたどり着く必要があるので、時間がかかる上に大変に感じるのです。（でもこの方法でないと、本当の力は身につきません）

つまり、私達はMACなりの「親切、丁寧、分かるまで」の指導方法を行っているのですが、生徒たちの考える「親切、丁寧、分かるまで」とは少し違うのです。

A君は優秀なスタッフだったのでこの件以降は自らの指導方法を見なおしたようですが、やはり塾の講師をする人は「教えたがり」が多い傾向があり、MACのような時間と手間がかかって自分で

答えに辿りつかせる「考えさせる指導」に戸惑う人が多いのです。

MACが育てたい「これから の時代を生きて行ける人」

AIが進化し、誰も経験したことのない時代を生きる今の子ども達。そんな子どもたちに我々は何を教えるべきなのでしょうか。

時代は信じられないスピードで変化し続けています。つまり、「今」必要とされているスキルと、「少し先の未来」に必要とされるスキルは違っている可能性が高いのです。

そんな変化の著しい社会で必要とされる為には、時代と同じスピードで変化（成長）し続けられる人でなければなりません。

MACの考える、これからの時代を生きて行ける人、それを一言で言うならば

『自ら学び続け、 成長を続けられる人』

これからの時代は「今何ができる」「今どんなスキル」がある、ということ以上に、「時代の変化に合わせて、その人自身がどれだけ変わっていけるか（成長できるか）」ということを求められています。

社会人一年目のスタートの段階で、持ち合せているスキルには差があるかもしれません、その後は40年近く社会人として働くわけです（もう今の時代は50年ですね）。

そう考えると社会人になった時点での差なんて無いに等しいのです。

大切なのは、常に自ら学び続け、時代とともに変化し続けられる「伸びしろ」なのです。

面接官はそこを意識して、学生たちを見ています。

昔も今も変わらない原理

このNEWSを書いていて、ある言葉をふと思いつきました。

「種の起源」で有名な、英國の自然科學者チャールズ・ダーウィンの言葉です。

『生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである』

時代が変わっても、物事の原理は変わらないようです。

MACも塾ですので、試験で良い点が取れるよう日々教科指導をしています。しかし目の前のテストで1回の100点をとることよりも、今は不完全でも将来社会人になってから100点を取り続けられる人を育てよう、という思いで日々指導にあたっています。

長期的にみて本当に役立つ、必要な力を育てるのは一朝一夕ではできませんし、なかなか「成果」というものが目に見えにくのですが。しかし、そこを目指さなければ意味がありません。

これからもMACは、表面的な「親切、丁寧、分かるまで」ではない、『生徒たちにとって本当に親切』な指導を続けていきます。